

お ば ま じ ょ う あ と
小 浜 城 跡

— 発掘調査現地説明会資料 —

福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

令和元年9月14日（土）

お ば ま じ ょ う あ と 小 浜 城 跡

所 在 地：小浜市城内1丁目

調査原因：一般国道162号道路改良工事

調査期間：令和元年6月1日～11月30日

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：平成31年度 263㎡（雲浜保育園跡地） 192㎡（裁判所内築山）

時 期：江戸時代

調査の概要

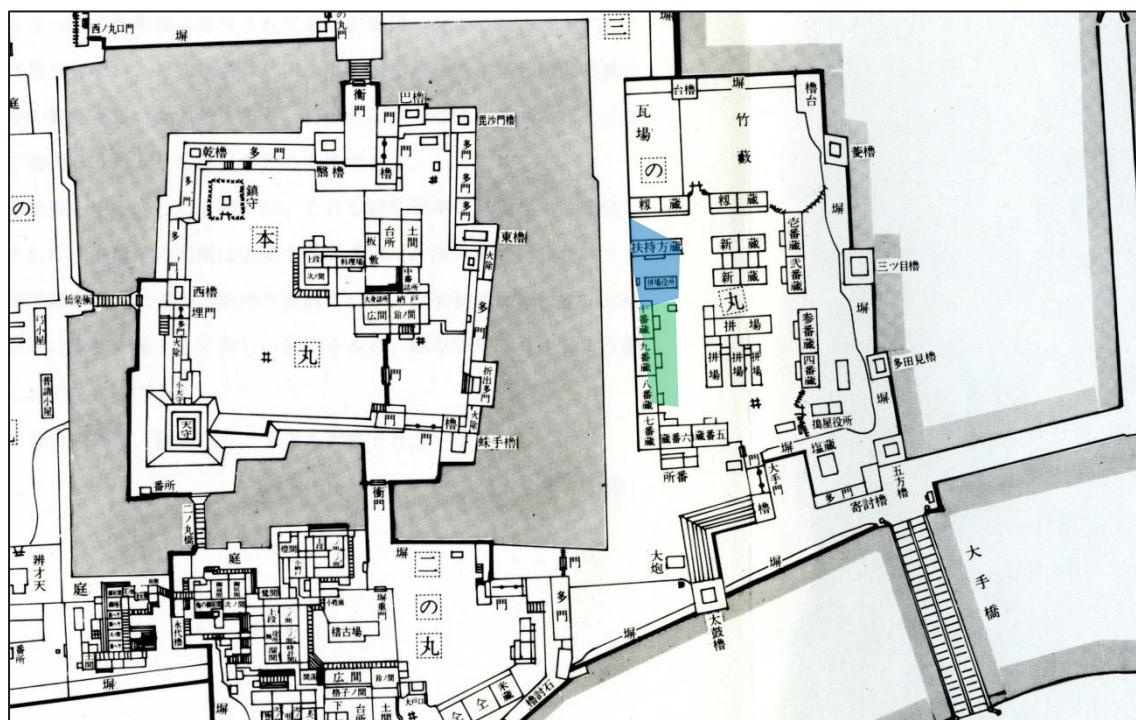
小浜城は、北川と南川に挟まれた三角州を形成する河口に所在します。

小浜城は、関ヶ原合戦ののちに若狭国を拝領した京極氏によって築城が開始され、京極氏移封ののちに若狭国を拝領した酒井氏によって完成しました。

福井県教育庁埋蔵文化財調査センターの調査は、一般国道162号線道路改良工事に伴って行われています。平成30年度から調査を開始しており、今年で2年目です。

調査を行った場所は、小浜城本丸（現在の小浜神社）の東側の三ノ丸にあたります。三ノ丸は絵図によると米蔵が立ち並ぶ場所です。昭和50年代に行われた裁判所改築工事に伴う発掘調査では、米蔵の基壇を確認しています。

以下、30年度の成果とあわせて説明します。



江戸時代の小浜城絵図（『若狭小浜城』1984小浜城跡発掘調査団より転載）

（平成30年度調査区・・・ 令和元年度調査区・・・ ）

平成 30 年度の調査成果

調査区内の南北方向に高さ 1 m ほどの石垣（米蔵基壇）と、石垣の前面に 3 ヶ所の張出しを確認しました。これらの石垣と張出しは、絵図に描かれている「八番蔵」、「九番蔵」、「拾番蔵」と対応するものと考えています。張出しは石垣と比較してやや低くなっており、米蔵の入口が張出しの背後に存在したものと考えています。石垣や張出しを構成する石材はすべて花崗岩です。石垣や張出しの下には割石を認めるものの、胴木（石垣が自重で沈むのを防ぐ木組）は確認できませんでした。

出土した遺物のほとんどは瓦です。米蔵の屋根に葺かれていたものです。いぶし瓦と赤瓦の両者が存在するものの、主体はいぶし瓦です。いぶし瓦は小浜近辺で生産されたものと考えています。赤瓦は越前にルーツがあり、小浜近辺で生産は確認されていないことから、越前（敦賀？）から運び込まれたものと考えています。瓦は 17～19 世紀にかけてのもので、

米蔵建設以前の遺構も調査区内の一部で確認しました。また米蔵建設以前の土の中からは、ふいごの羽口や鉄滓など金属加工に伴う遺物が出土しています。三ノ丸では、米蔵ができる以前に金属加工が行われていたことが明らかになりました。



平成 30 年度小浜城跡発掘調査区

令和元年度の調査成果

調査区内に石垣、石列、排水溝などの小浜城の痕跡を確認することができました。

なかでも、石垣に関してはおもしろい成果を上げることができました。

昨年の調査で確認しました石垣の続きが見つかりました。石垣の角部分が確認できました。石垣の角部分が確認できたことから、見つかった石垣は絵図に残る「拾番蔵」の石垣であることが確定しました。

また、蔵そのものの痕跡は確認できませんでしたが、絵図に残る「扶持方蔵」の石垣と、蔵に伴うと思われる石列を確認しました。ほぼ絵図の通りに石垣や蔵に伴う整地を確認しました。

加えて、これまでの調査では見つかっていない新たな石垣と張出し（基礎部分）を確認しました。この石垣は「拾番蔵」、「扶持方蔵」の造営に伴って江戸時代に破壊されてしまい、今日では石垣の基礎部分しか残っていませんでした。

このことから、江戸時代の小浜城三ノ丸では、石垣の破壊を伴うような大規模な改修が行われていたことが明らかになりました。「拾番蔵」や「扶持方蔵」の造営は酒井氏によって行われております。確かな証拠はありませんが、京極氏から酒井氏の領主交代の際の改修の痕跡であるかもしれません。



令和元年度小浜城跡発掘調査区



拾番蔵石垣



扶持方蔵石垣



扶持方蔵



今回の調査で新発見の石垣

おわりに

調査は、来年度以降も引き続き行われます。小浜城の姿が少しずつですが、明らかになっていくことでしょう。最後になりますが、発掘調査にご協力・ご支援いただきました地元のみなさまや関係機関に御礼申し上げます。

小浜城年表

西暦	年号	主なできごと
1600	慶長5年	京極高次、関ヶ原の合戦で徳川家康(東軍)に味方し、大津城籠城で功績をあげる。若狭国を拝領し、初代小浜藩主となる。
1601	慶長6年	後瀬山城を廃城し、小浜城の築城を開始する。
1607	慶長12年	天守閣は存在しないものの、小浜城の縄張りはほぼ完成する。
1609	慶長14年	京極高次死去、息子京極忠高が2代小浜藩主となる。
1624	寛永元年	敦賀郡が小浜藩領となる。
1634	寛永11年	京極忠高、出雲松江へ転封する。 武蔵川越の酒井忠勝が小浜藩主となる。 (幕末まで酒井家が藩主を務める。)
1635	寛永12年	幕府より天守閣造営の許可が下りる。
1636	寛永13年	天守閣が完成する。
1642	寛永19年	大手門を築造する。
1645	正保2年	本丸多門櫓が完成する。
1644~ 1647	正保年中	三ノ丸の米蔵はこのころに整備されている。
1655	明暦元年	各建物の屋根の吹き替えを行う。
1662	寛文2年	大地震。石垣が崩壊するなどの被害を受ける。
1768	明和5年	二ノ丸を修築する。
1794	寛政6年	洪水があり、小浜城大手に被害を受ける。
1870	明治3年	町民の城内の通行が許可される。
1871	明治4年	二ノ丸に大阪鎮台第一分営を建設中に出火し、天守閣を除く大部分の建物が消失する。
1872	明治5年	城内通行のために、本丸の東側石垣が破壊される。
1873	明治6年	廃城令が出される。
1874	明治7年	天守閣が解体される。
1875	明治8年	小浜神社が創建される。
1979~ 1982	昭和54 ~57年	小浜城跡発掘調査団による発掘調査。
1997~ 2001	平成9~ 13年	小浜市教育委員会による発掘調査。
2018~	平成30 年	福井県教育庁埋蔵文化財調査センターによる発掘調査。(継続中)



**小浜城跡
発掘調査現地説明会資料**

発行日 令和元年9月14日
令和2年5月18日（改訂）
発行 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
〒910-2152 福井市安波賀町4-10
TEL 0776-41-3644
E-mail maibun-c@pref.fukui.lg.jp